

NPO 法人

全日本語りネットワーク

〒376-0006 群馬県桐生市新宿1-4-33
 (Fax) 0277-43-8225 (振替) 00130-2-114808
 (E-mail) welcome@japankatarinet.jp
 (HP) http://japankatarinet.jp/

2017. 11. 4 発行

ニュース

「栃木の昔」を語り伝える

間中 一代 (栃木県栃木市 栃木語り部の会代表)

私は幼い頃、祖父母や母から昔話を聴きました。風呂の中で得意げに語る祖父の顔は薪の匂いと共に思い出され今も心を温めてくれます。先人の知恵の集積としての昔話を伝承していこうと決意したのは、子どもを亡くし教職も辞し失意の中で聞いた「いたちの子守歌」の語りに生き直す力をもらったからです。

沢山の昔話を聴いて耳袋に貯め込もうと出かけた民話語りの会で、日光市栗山生まれの岡本香久子さんの語る「麻布地蔵」を聴きました。凍える地蔵様に麻布を巻きつけて手ぶらで帰って来た爺様を叱り飛ばす婆様を語る早口で迫力のある語りに圧倒され、昔話の語り口はゆったりしているという固定観念も吹き飛びました。栗山の昔話の他に、茂木(もてぎ)の加藤嘉一さんの昔話も語り継いでいます。加藤さんは昔話採集の黎明期に教職の傍ら山里の家々を訪ね歩いて採話したのですが、教え子を満州に送ることを拒否し、自らは満州で若くして亡くなったのです。加藤さんの遺した「鳥を食べた爺様」を聴いて笑うお年寄りの笑顔を見る度に、昔話を語れる平和を願わずにはいられません。

語り続けるうち、子育て支援から高齢者教室まで語りの場は広がりましたが、子どもたちにこそ昔話を届けたいので学校へ語りの出前に行きます。昔話の他に学区に伝わる話は必ず語ることに決めています。地域を歩いて採話する中で、この秋初めて聞いた「錦着山の埋め太鼓」という十五夜の狸囃子の話を、早速その山近くの学校で「ねえ、こんな話があるんだって!」という、ワクワクした気持ちで子どもたちに語りました。地域の伝説や偉人の話を調べて語った話を児童が紙芝居にしてくれた学校もありました。また、栃木の郷土料理「しもつかれ」の伝承をまとめて「しもつかれの話」を作り、これが給食に出される時期に学校を廻って語り、時には調理実習もします。内陸県栃木の先人の知恵が生んだ、初午のお供え、豊作祈願のこの料理を次世代に伝えたいのです。

私の住む栃木市は巴波川(うずまがわ)の舟運で栄え、蔵の街栃木と呼ばれる静かな町です。この町の魅力を知っていただこうと、市内の蔵や旧家の奥座敷で箏とコラボして語ったり、夏の夜に行灯の灯る川辺で琵琶と共に栃木の伝説や平家物語を語ったりしています。舟の上での怪談噺、お寺でお経とのコラボ、昔話に着想を得た料理とのコラボ。語りは、次々と新しい場と出会いを生み出してくれています。



しもつかれ



しもつかれ材料